

思いは一つ 昔の湖山池の復活を



左 福田 眞章さん Masanori Fukuta
右 朝野 保さん Tamotsu Asano

中 布井 要さん Kaname Nunoi

さんとう 山王団地 湖山池の再生を考える会

湖山池を蘇らせた

湖山池東岸お花畑ゾーンに、動植物が生息する、手づくりの人工公園「ビオトープ」があるのをご存じですか。ビオトープというのはドイツ語で生物 (Bio) と場所 (Topo) を示す造語で、動植物が常に生活できるように造成、復元された小規模な生息空間のこと。

今回ご紹介するのは、このビオトープを整備した「山王団地湖山池の再生を考える

会」のみなさんです。「湖山池の近くに住む我々で、昔の湖山池を何とか蘇らせよう」その思いのもとに集まったメンバーは、仕事の第一線を退いた人たちや公務員など、さまざまな職業をもった40歳代から70歳代の13人。

昔は魚釣りをしたり、泳いだりすることもできた湖山池ですが、ここ十数年はゴミや生活排水で汚れが目立ってきました。年々汚染される姿を見続けた住民が、水質を浄化させようとこの会を発足し、

計画、設計、そして作業まで住民の手で作りに上げたのです。

知恵を出し合い 試行錯誤を重ねて

この水辺を再生させたビオトープは、川の中に中州を作り、二方を親水水路として整備。竹で編んだ手づくりの柵や石で護岸し、中州に渡れるように木製の橋も架けてあります。ネコヤナギや花シヨウブなども植え、さらに流木や石で作ったベンチも設置して

憩いの場所としての演出も十分。会長の朝野さんは「繰り返し話し合い、メンバーそれぞれがいるんならウハウウを持ち寄って、ときには、かけやを振りながらアイデアがでることも。県外の先進地へ視察にも行き、実際に環境改善に取り組んでいる方々からお話を聞きました。試行錯誤を繰り返しながら、準備に1年。作業は2月初めにとりかかり、雨の日も雪の日も休むことなく続けた結果、約3カ月で完成することができまし